



【10】保存への模索…白壁アカデミア

1 白壁アカデミア構想

白壁地区の建築物を保存するためには、そのまちづくりの方向を明確にする必要がありました。次々に出てくるかもしれない保存要請の物件を、すべて公共で保存することは不可能だからです。

そのため、平成8年、市役所の有志や建築の専門家、保存に興味を持った人などが、白壁の榎木館に集まって勉強会を始めました。議論の中では、いくつかの案が出てきましたが、経営主体の議論になると行き詰まってしまいました。

そんな中で注目されたのが、「大学院村」構想です。昔の大坂の適塾周辺に範をとった座学の大学院を、白壁地区に各大学の分館として設置するというものです。それは、「白壁アカデミア構想」と名づけられました。

今回は、残念ながら実現しなかった白壁アカデミア構想から、市民塾「白壁アカデミア」の設立等、平成8年頃からの保存活動

の軌跡を追ってみたいと思います。

2 まちづくりの方向

(1) 白壁アカデミア構想

白壁地区のまちづくりの方向を考えるうえで、地域には、いくつかの特徴がありました。まず、①土地の区画が大きいことと、②建物も大きいこと。そして、③それらが群を成していること。さらに、④都心部に比較的近いことでした。したがって、単なる住宅街の計画ではなく、これらを活かしたまちづくりが望ましいと考えました。

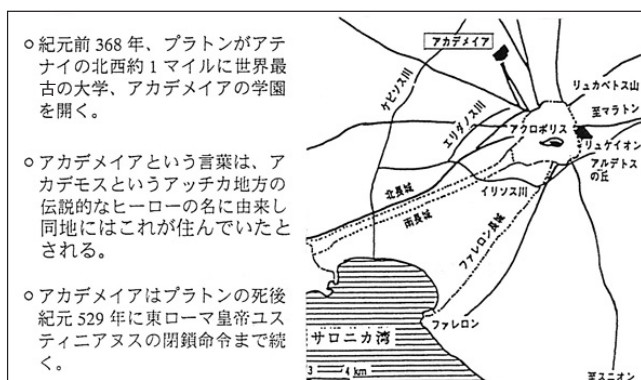


図1 プラトンのアカデメイアの学園

ミニ産業博物館群などいくつかの提案がありました。大学関係者から出てきた高等教育施設「大学院村」というアイディアは、事業主体があるだけに説得力がありました。これは、江戸時代の大坂の「適塾」付近で、周辺にあるいくつかの塾が相互交流していたことに着目するものです。白壁地区に置き直すと、地区内にいくつかの大学が大学院の分館を造り、相互に交流・補完をするというものでした。この構想は早速まとめられ、プラトンのアカデメイアの学園から、「白壁アカデミア構想」と名づけられ、平成9年5月に発表されました(図1)。

構想は、広く関係者に理解され、10月には愛知県内大学のすべての学長が集まる学長懇話会(市長、知事出席)でも説明の機会を得ました。そしていくつかの大学では、学長を白壁地区に案内するところまでいったのです。しかし、大学拡張・統合等の各校の事情に重なり、残念ながら目標とした「複数大学」の参加には至りませんでした。

(2)市民塾・白壁アカデミアの設立

そこで考えられたのが、先行して自分たちで「大学院」をつくらうという動きです。市民自らが、自分たちのテーマを考え、先生を選び、学ぼうと考えました。

まず運営の主体として、「白壁アカデミア」という市民団体がつ

くられました。大学関係者、建築の専門家ばかりでなく、幅広い分野からメンバーが集まりました。設定した講座は、「21世紀の知」をメインテーマとし、職人の技を学ぶ「手の知」講座とか、古い建築を学ぶ「レトロ建築」講座などがつくられました。また、公開講座として、大学学長自らが語る「学長講演」シリーズ等も企画されたのです。

白壁アカデミアは、平成10年10月に開講しました。会場はもちろん白壁地区の古い建物です。マスコミも注目し、白壁地区の新しい可能性が示されたといえます(図2)。

残念ながら、狙いだった後続の大学院設置を希望する大学は出てきませんでした。白壁地区に拠点を置く、市民塾が生まれることになったのです。

(3)町並み保存支援へ

白壁アカデミアの成立の頃から、名古屋市も白壁地区の町並みの保存を、市の大きなテーマとするようになりました。平成10年度には少ないながらも予算が付き、地区の基本調査が行われました。そして13年には仕事を、総務局から事業を行うことのできる住宅都市



図2 「市民塾・白壁アカデミア」設立の報道

局に移しました。

ところが14年、白壁地区の真ん中にあった大きな料亭が売却され、高さ30mという大きなマンション計画が発表されたのです。これまでは白壁地区は高さ20m程度が守られていただけに、異例の大型建物です。当然周辺から反対の声が出ることになりました。しかし住民には専門知識がありません。裁判が起されましたが、住民側にはそれを支える力がありませんでした。そこで、白壁アカデミアが支援することになったのです。

そして驚くべきことに、第一審では勝訴でした。都市計画法にも建築基準法にも適合した建物を、「景観利益」という考え方から、20m以上の部分の建築を不可とする全国的にも画期的な判決でした。そこで建築側は、1階減らして高さを5m下げて妥協を図ることになりました。

しかしながら、白壁地区ではこのような動きは次々に起こる可能性があります。そこで、住民の有志は、地区の「住環境を考える会」をつくり、街全体の環境について考えることにしました。そして平成17年には「まちづくり憲章」を発表したのです。さらに同年の景観法の制定を受けて、法的な規制のできる「景観形成地区の指定」を目指し、住民が動きだすことになりました。

市民大学院を目指して設立した白壁アカデミアは、大学院誘致という目的は果たせませんでしたが、白壁地区の町並みの形成に、重要な役割を果たすことができました。そして15年間。メンバーは少なくなりましたが今日でも市民塾を継続し、専門家集団として白

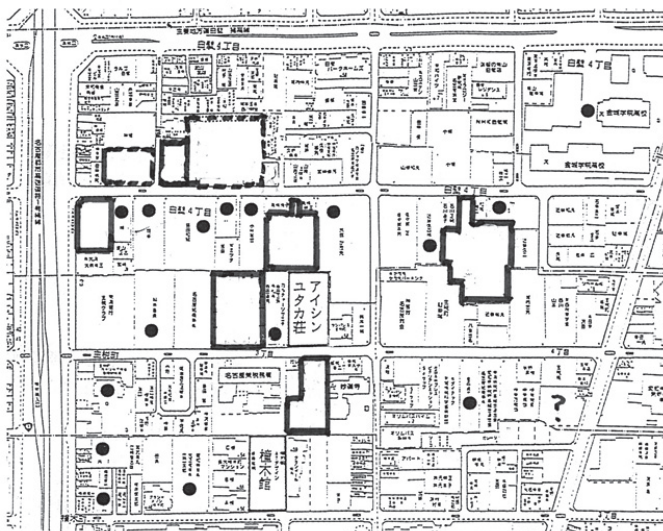


図3 平成7年以降、マンション化した建物
(黒枠の土地。黒丸は重要建築物。点線は期間外)

壁地区のまちづくりを支援しています。

3 紀行 保存されなかった建物

… 活動もむなしく …

白壁地区では、最近でも、いくつかの大切な建築物が、改変され、除却されていきました(図3)。今回はそれらの跡の姿を眺めながら、町並みを歩いてみたいと思います。

〈白壁町筋から〉

基幹バス新出来町線の清水口停で降車し、



白壁筋の入口に立つ高層マンション

東側の歩道を南に進みます。1本目を左折すると白壁町筋です。まず入り口に高いマンションがあります。このマンションは大きなお屋敷でしたが、町並み保存が問題になってから建てられたものです。

東に進むと、左側に白い大きな7階建てのマンションがあります。この建物は昭和50年代、町並み保存地区に指定される前の計画ですが、市との協議で街の景観を守るため、前面の門と塀を残して建築されました。そのため建物をバックさせることになり、北側の建物は階段状に下げられています。その先の右側のマンションも、平成8年頃、建てられたものです。

一本道路を越えて少し行った右側に、古い長屋門から入るマンションがあります。このマンションが高さが問題になった建物です。少し奥まっているので北の玄関側からはよく見えませんが、東側や南側から見るとその大

きさがよく分かります。有力者の邸宅が料亭として残っていただけに、経済性の問題とはいえ大変残念です。東に進みバス通りを右に曲がります。

〈主税町筋へ〉

次の主税町筋を曲がる前に、その次の角と間の右側、大きな木のある駐車場を見てみましょう。そんなに大きくない区画ですが、ここに平成18年、15階建て、高さ47mのマンション計画が出されました。しかしこの計画は、住民の反対や樹木の問題もあって、市の景観審議会で「企業の社会的責任」を問う意見が出されて撤回されました。

戻って、主税町筋を西に進みます。少し行くと右側、広い駐車場の向こうに見えるのが、高さが問題になったマンションです。手前が空き地のため、周囲に不調和な姿をさらけ出すことになってしまいました。

通りを越えると、右側は豊田佐助邸ですが、



門と塀の保存されたマンション



高さが裁判になったマンションの入口



門塀の保存でバックし、北側は階段状になった



同マンションの南側景観



15階のマンションが計画された駐車場

その向かえのお宅も、元は和風の立派なお宅でした。ところが相続問題のこじれからマンションに変わってしまいました。その先の右側、レストランのある春田邸の向こうは、前に紹介したように武田五一設計で、日本の集合住宅の祖とでもいうべき建物でした。が、



相続で分割されてマンション化した邸宅



武田五一設計の集合住宅の跡は
和洋折衷の結婚式場

その西の敷地と合わせ、和洋折衷の結婚式場になっています。

白壁地区は敷地が大きいだけに、マンションの建てやすい地域です。そこに、経済性が加わって、無機質なマンションの適地になってしまったようです。進むと高速道路の通る国道です。左に10分ほどで地下鉄高岳駅があります。

4 「地獄絵」

白壁地区のマンションが問題になった時、関係者が「地獄絵」と呼んだ絵が描かれました。それは、すべての区画がマンションに変わった時の姿を想定した絵です。

この地区が、環境の良い土地として高級なマンションが建つのは、周りに環境の良い土地があるからです。しかし自らはその環境を壊しつつ、周囲の環境に依存するというのは明らかに間違いです。そこですべてがマンションになった時の姿を示して、非を問う意味を示したかったからです。

名古屋市内でも、千種区の月見坂など、昔は環境の良い場所として評価されていました。しかし、今訪れるとマンション街です。交通の便が良いので一定の評価はありますが、白壁地区がマンション街となれば普通の街になってしまうのです。環境の良い白壁地区だからこそ、エゴイズムと経済の論理だけでは無い「良識」が欲しいものです。

〈主な参考文献〉

- ① 白壁アカデミア研究会「白壁地区の近代建築を大学に―「白壁アカデミア構想」―」(1997)
- ② 谷岡郁子「白壁アカデミア構想～都市における私塾型ミニ大学院と近代建築の保存の試み～」
(日本教育社会学会 報文)
- ③ 名古屋工業大学兼田研究室編「白壁・主税・榎木町地区景観まちづくり年表」(2012)